

1 調査の概要

(1) 目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査日時 平成26年4月22日（火）

(3) 対象学年 小学校第6学年 中学校第3学年

(4) 調査の内容

① 教科に関する調査（国語、算数・数学）

- ・主として「知識」に関する問題
 - ・主として「活用」に関する問題
- | | |
|---|---|
| { | <ul style="list-style-type: none">・国語A、算数・数学A：主として「知識」に関する問題を中心とした出題・国語B、算数・数学B：主として「活用」に関する問題を中心とした出題 |
|---|---|

② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

ア 児童生徒に対する調査

【小学校…74項目】

【中学校…74項目】

イ 学校に対する調査【小学校…101項目、中学校…99項目】

2 結果概要

(1) 教科に関する結果

① 総評

平均正答率を比べると、小学校は、小学校国語における「知識」に関する問題及び小学校算数における「活用」に関する問題に課題が見られる。中学校は国語・数学ともに全国平均を上回る結果であった。

② 教科ごとの結果 (○：相当数の児童・生徒ができている点、●：課題のある点)

【小学校国語】

- 漢字を正しく読む。
- 漢字を正しく書く、文の意味を理解する、接続語を使って内容を分けて書く。
- 故事成語の意味を理解し、正しく使う。
- 立場を明確にして、質問や意見を書く。
- 分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係づけながらまとめて書く。

【小学校算数】

- 四則計算をする。
- 割合や四則の混合した式、分数の相等及び大小について理解する。
- 情報を整理し、筋道を立てて考え、判断する。
- 示された計算のきまりを基に、異なる数値の場合でも工夫して計算する方法を記述する。
- 示された情報を整理し、筋道を立てて考え、小数倍の長さの求め方を記述する。

【中学校国語】

- 登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する。
- 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う。
- 文脈に即して漢字を正しく書いたり、語句の意味を理解して文脈の中で適切に使う。
- 目的に沿って話し合い、互いの発言を検討する。
- 資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書く。

【中学校数学】

- 正の数と負の数の計算や数量を文字式で表す。
- 絶対値の意味や等式の性質と移項の関係、空間図形の構成を理解する。
- 底辺が合同で高さが等しい円柱と円錐の体積の関係や関数の意味、反比例や一次関数の変化の割合の意味を理解する。
- 統計グラフにおいて、中央値の意味を理解する。
- 図形の性質を、構想を立てて証明したり、グラフの特徴を事象に即して解決し結果を改善して問題を解決する方法を説明したりする。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する結果（県及び国の回答率と比較して）

- ◆ 調査問題の解答時間が「やや足りなかった」と回答している児童生徒の割合が多い。
- ◆ 家庭での学習習慣が身につけていない児童生徒が多い。
 - ・ 家庭学習の時間が少ない。
 - ・ 予習、復習をしている生徒の割合が低い。
 - ・ テレビなどのニュースをよく見ている児童の割合が低い。
- ◆ 400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことが難しいと感じている児童生徒が多い。
- ◆ 国語の勉強が好きだと肯定的に回答している児童の割合が低い。
- ◆ 学校生活で、友達関係など何か悩みを抱えたら、「先生に相談する」と回答した児童の割合が高い。

3 今後の対応

① 学校の組織的な取組

- ・ 学校全体で成果と課題を共有し、取組の工夫改善・充実に向け、各校の学力向上プランを見直すことで、全校体制での取組を推進する。
- ・ 市教委主催の「学力向上プラン検討会」において、全小・中学校での取組について情報交換を行う。
- ・ 全小・中学校1名ほど先進校視察を行い、成果を生かした授業を各校で行い、市教委主催の研修会で市内の学校に実践を広める。
- ・ 各学校の課題を整理し、課題に応じた対応について個別に検討・具体的な対策への助言を行う。
- ・ 学校運営協議会で自校の結果の概要と今後の取組について説明し、家庭や地域との連携を図る。

② 指導方法の工夫改善

- ・ 各校に長門市がめざす「わかる・できる」授業像を明確に示し、校長会や研修会を通じて市内全教員に共通理解を図る。
- ・ 「授業改善リーダー育成研修会」を開催し、各校に授業改善の中心となる人材育成を行う。
- ・ 全小・中学校1名ほど先進校視察を行い、成果を生かした授業を各校で実践し、改善を図る。
- ・ 指導主事の地区担当や外部講師による効果的な指導方法の普及を図る。

る。

- ・国語科の基礎基本の定着及び「書く」指導の充実に重点を置き、指導方法の工夫改善を推進する。

③学習環境の整備

- ・各みすゞ学園において、研修主任や学力向上推進リーダー・教員、教育力向上指導員等が中心となり、小学校と中学校が連携した研修や交流を推進する。
- ・子どもたちの状況に応じたきめ細かな指導体制づくりの推進や幼保小・中の連携を充実させるためのカリキュラムづくりを推進する。

④学習習慣の確立

- ・家庭との連携を推進し、学習習慣の定着を図る。
- ・自主学習ノートや県が作成した問題の活用等、家庭学習に対する取組の充実を図る。

参考 国及び山口県の調査結果

区分	「小学校」 平均正答率（問）		区分	「中学校」 平均正答率（問）	
	山口県	全国		山口県	全国
国語A	73.6	72.9	国語A	80.7	79.4
国語B	57.8	55.5	国語B	52.4	51.0
算数A	79.5	78.1	数学A	70.3	67.4
算数B	58.6	58.2	数学B	62.6	60.8

■調査問題・正答例・結果の詳細等については、下記HPをご覧ください。

- ・ [国立教育政策研修所 教育課程研究センター 「全国学力・学習状況調査」](#)
- ・ [山口県教育委員会 義務教育課 「全国学力・学習状況調査」](#)